パソコンスピード認定試験（日本語）・（英文）実施要項

本認定試験は、パソコンの日本語ワープロソフト・英文ワープロソフトの有効な利用を通じて、正確かつ迅速な入力技能とコンピュータ活用能力の向上を図ることを目的として実施する。

▌パソコンスピード認定試験実施概要▐

1．実　施　日　　７月第２日曜日　１０月第２日曜日　１２月第２日曜日　２月第４日曜日
★試験会場校からの届出により前後１０日間の移動が可能です。

2．試 験 会 場　　本協会指定会場（申し込みのあった各大学、各学校および教室が試験会場校となります。ただし、原則として受験者が１０名以上であることを要します）

3．受 験 資 格　　制限ありません。

4．試 験 形 式　　実技試験
指示に対応できる機能を有するソフトを使用（使用機種・ソフト・ソフトのバージョンは問いません）

5．受験申込方法　　申込方法および受験料の振込については、以下のとおりの手続きで行ってください。
①試験会場校は、申込受付期間中に受験人数を取りまとめ、受験申込締切日までに本協会ホームページよりお申し込みください。または、本協会指定の受験申込書に記載のうえ、各本部あてに、ＦＡＸまたは郵送してください。
②受験料は、受験申込締切日までに指定口座に振り込んでください。

6．合格者の発表　　結果の発表は、試験会場校より直接受験者に発表してください。
なお、受験者からの試験の合否および成績についてのお問い合わせは、受け付けておりません。

7．そ　の　他　　１）答案の公開・返却はいたしません。
２）合格証書は、試験会場校を通じて交付してください。
３）合格証書の再発行はいたしません。ただし申請により合格証明書の発行をいたします。
４）受験者などの個人情報の取り扱いにはご注意ください。

受験者への注意事項

※事前に受験者へお知らせください

1．指定された時刻までに試験会場に入場していること。
2．持参する物　①受験票　②筆記用具
3．試験会場においてはすべて試験監督の指示に従うこと。
4．試験会場において不正行為を行った場合は退場とし、試験は認定対象外とする。
5．試験中に機器のトラブルが発生したときは速やかに手を挙げ、試験監督の指示を仰ぐこと。

実施方法・試験の注意

前日まで

試験で使用する機器の点検を行ってください。

試験日当日

試験時間前

①練習問題を使用して３分程度の指慣らしおよび機器の点検を実施させてください。
②問題・解答用紙を配付（問題は閉じたまま表紙を上に）し、『始め』の号令がかかるまでは問題を見ないように指示してください。
③使用するソフトの立ち上げを指示し、ヘッダーに受験番号・名前を入力させてください。
④１行の文字数、Ａ４判縦サイズ、行数の設定を行わせてください。

試験時間　（日本語・英文：１０分）

※機器にトラブルが発生した場合は受験者に不平等が生じないように対応してください。
①試験時間はタイマーを使い、正確に計測し、『始め』・『やめ』等の号令は大きな声で行い、節度ある試験にしてください。
②『始め』の号令で試験を開始します。
注）「８分経過、残り時間２分」と必ず受験者に伝えてください。
③『やめ』の号令でキーボード・マウスから手を離させ、問題を閉じて表紙を上にさせてください

試験時間後（ファイルの保存・印刷）

保存について　　試験会場校にてＣＤにまとめて保存してください。
・科目（日本語・英文）ごとに保存してください。
・回数、科目、試験会場校名の記入は試験会場校にて行ってください。また、ファイルの保存方法については、会場ごとに受験者に指示してください。
①ファイルの保存と解答の印刷を指示し、確認させてください。（保存、印刷は受験者自身が行い、原則として１回とする）
②保存するファイル名は受験番号・名前（例：１０１日検太郎）と指示してください。
③解答用紙を問題とともに回収してください。
④試験後に試験内容がハードディスク等に残らないようにしてください。

試験実施後

採点は印刷物および保存されたデータにより本協会が行います。以下のものを送付・送信してください。
①試験結果を印刷したもの　送付
②結果保存されたＣＤ　送付
③受験者名簿データ　送信

★解答用紙は、返却いたしません。
★本協会での採点後、結果通知書および認定証書を試験会場校へ送付いたします。
（認定証書の日付は、本協会の規定実施日として発行いたします）
★採点について不明な点は名古屋統括本部までお問い合わせください。　TEL 052（936）3817

▌パソコンスピード認定試験規則▐

第１条　本協会は学生、生徒ならびに卒業生、その他に対して日本語入力技能・英文入力技能を認定する。
第２条　認定する段・級は、初段・１級・２級・３級・４級・５級の６種とする。
第３条　認定試験は、年４回実施する。
第４条　認定試験は、速度実技試験のみとする。
第５条　検定試験は、「パソコンスピード認定試験基準」により実施する。
第６条　認定基準に沿って認定証書を授与する。
　　なお、認定証書の再発行は行わない。（再発行は認定証明書とする）
附　則　この試験規則は、平成２１年４月１日より施行する。

▌パソコンスピード認定施行細則▐

第１条　受験希望者は、所定の受験申込書に必要事項を記入のうえ、受験料を添えて期日までに試験会場校に提出しなければならない。
第２条　受験料は、１科目1,200円とする。（税込み）
第３条　受験票は、試験会場に持参しなければならない。
第４条　試験会場では、試験監督の指示に従わなければならない。
附　則　この施行細則は、平成１６年４月１日より施行する。

▌パソコンスピード認定試験基準▐

■日本語

１．内　　容　　試験時間内に問題文どおりに入力する。
２．試 験 時 間　　１０分間（印刷の時間は含まない）
３．認 定 基 準　　試験時間内に入力した純字数により以下の初段・級を認定する。
　　初段… 1,500文字　以上　　１級… 1,000文字　以上
　　２級……700文字　以上　　３級……500文字　以上
　　４級……300文字　以上　　５級……100文字　以上
４．採 点 方 法　　１ミスにつき１文字減とする。（初段・各級とも同じ）
　　純字数＝総字数－ミス数
５．問題文書式　　用紙サイズ　　Ａ３判　見開き
　　1行の文字数　　４０文字
　　1ページの行数　　３６行
　　文字フォント　　ＭＳ明朝
　　文字サイズ　　１０.５ポイント
６．解答用紙書式　　Ａ４判縦
７．書式の減点　　１行の文字数が４０文字でない場合、１ページの行数が３６行でない場合は減点とする。

■英　文

１．内　　容　　試験時間内に問題文どおりに（ストレートに）入力する。各行末の改行位置も問題どおりとする。
　　（行末でエンターキーを押し強制改行する）
２．試 験 時 間　　１０分間（印刷の時間は含まない）
３．認 定 基 準　　試験時間内に入力した純ストロークス（純字数）により以下の初段・級を認定する。
　　初段… 3,000ストロークス　以上　　１級… 2,000ストロークス　以上
　　２級… 1,400ストロークス　以上　　３級… 1,000ストロークス　以上
　　４級……600ストロークス　以上　　５級……200ストロークス　以上
４．採 点 方 法　　１ミスにつき２ストロークス減とする。（初段・各級とも同じ）
　　純ストロークス＝総ストロークス－（ミス数×２）
５．問題文書式　　用紙サイズ　　Ａ３判　見開き
　　１行のストロークス　　７６ストロークス以内
　　１ページの行数　　２９行
　　文字フォント　　Courier New
　　文字サイズ　　１２ポイント
６．解答用紙書式　　Ａ４判縦
７．書式の減点　　改行箇所、改ページ箇所は問題文どおりでない場合は減点とする。

採点規則（日本語）

◎次の文例により、規則を示す。

【文例】

日本は昔から実に環境に優しい暮らしをしていました。土や草、手作りの布や紙に囲まれていたのです。そして、それらは当然のように繰り返し使われてきました。現代は、リサイクルを声高にして叫ばれている時代ですが、日本ではもともとごく自然に行われていました。中でも和紙は、暮らしのさまざまな場面で使われており、今もその素材の素晴らしさは高く評価されています。現在、使用した紙の再生率は、世界的にも高い水準に達しています。今後はこの数字をできる限り伸ばす努力が必要だと思います。

ニッケン印刷株式会社は、再生紙技術と研究を４０年行っているＪ．Ｐａｌｍｅｒ教授に経営指導を受けながら、上記の創業者の言葉を実現すべく、努力を重ねて参ります。

	規　　則	正しい例	誤った例	ミス
1	**誤字** 問題と異なった文字が打たれた場合は、問題文の１文字について１ミスとする。	使用した紙の	私用した紙の	1
		暮らしのさまざまな	暮らしの様々な	4
		高く評価されて	たかく評価されて	1
2	**文字の大きさ（フォントサイズ）** **書体の種類（フォント）** **全角文字、半角文字** 文字の大きさ、書式の種類が混合しないこと。 数字･英字・カタカナ・記号は半角入力しないこと。 ※混合がある場合は全体で１ミス	環境に優しい 環境に優しい ４０ Ｊ．Ｐａｌｍｅｒ ニッケン	環境に優しい ※大きさの間違い 環境に**優しい**　※ゴシック 40 J.Palmer ﾆｯｹﾝ　※半角	1
3	**各行の間隔** 不規則で打ったものは誤り。 ※その箇所ごとに１ミス	日本は昔から実に～ れていたのです。～ サイクルを声高に～	日本は昔から実に～ ↓　↑ れていたのです。～ サイクルを声高に～	1
4	**強制改行** 問題文どおりとする。 ※その箇所ごとに１ミス	～ました。現代は、リサイクルを～ ～だと思います。 ニッケン印刷株式～	～ました。 現代は、リサイクルを～ ～だと思います。ニッケン 印刷株式～ ※改行位置が間違っている ※行頭のスペースが脱字である	1 2
5	**打ち始めの位置** 問題文どおりとする。 段落の１文字目を必ずあけること。 ※その箇所ごとに１ミス	日本は昔から～ れていたのです。	日本は昔から～ れていたのです。	1
6	**飛び字・余分字** 余分なスペースを打った場合は、スペース数に関わらず１ミスとする。 問題文以外の文字を打った場合は、その字数分をミスとする。 同じ文字を再度打った場合は、その字数分をミスとする。	～そして、それらは できる限り伸ばす 紙の再生率	～そして、＿それらは ～そして、＿＿それらは できる限りに伸ばす 紙の再生の再生率	1 1 1 3
7	**脱字**	今後はこの数字を	今後は数字を	2
8	**転倒** 転倒した文字は、字数分をミスとする。	必要だと 株式会社	必要とだ 会社株式	2 4
9	**全文の２度打ち**　問題文を打ち終えても２度打ちはしない。２度打ちした分は、総字数に加えない。			
10	**改ページ**　改ページする行が問題文と違う場合は、全体で１ミスとする。（行数設定のミス）			
11	**禁則処理**　正しい禁則処理によって１行が４０文字になっていない場合は、ミスとしない。			
12	**書式の誤り**　書式設定で１行４０文字に設定されていない場合は、１ミスとする。			
13	**長音記号と読点** 長音記号「ー」とハイフン「－」の混合は許容範囲として減点はしない。 読点「、」とカンマ「，」はどちらか一方に統一してあれば許容範囲とする。 混合している場合は全体で１ミスとする。			

採点規則（英文）

◎次の文例により、規則を示す。

【文例】

Flying in the air was man's long dream. Many inventors looked on birds as a model. They planned flying machines with wings. But the first traveler in the air was not in an airplane but in a balloon. Balloons were making journeys in the air a hundred years before the first airplane left the ground.

	規　則	正しい例	誤った例	ミス
1	**誤って打たれた語** １語中に誤りがいくつあっても、１ミスとする。	They planned flying	They planed flying They pranned flying They pllaaned flying	1 1 1
2	**文字の大きさとフォント** 文字の大きさとフォントは混合しないこと。 ※答案全体で１ミス	Flying in the air was	Flying in the air was Flying in the air was	1
3	**各行の間隔** 不規則で打ったものは誤り。 ※その箇所ごとに１ミス	Flying in the air was man's long dream. Many inventors looked on birds	Flying in the air was ↓ ↑ man's long dream. Many inventors looked on birds	1
4	**改行・改ページ** すべて問題文のとおりの箇所で改行・改ページをおこなうこと。 ※その箇所ごとに１ミス	Flying in the air was man's long dream. Many	Flying in the air was man's long dream. Many	1
5	**打ち始め** パラグラフのはじめの行を除いて、不揃いの行があれば誤り。 ※その箇所ごとに１ミス	Flying in the air was man's long dream. Many inventors looked on birds	Flying in the air was man's long dream. Many inventors looked on birds	1
6	**両端揃え（ジャスティフィケーション）**　パラグラフの始め以外は左揃えとし、両端揃えにはしない。　※答案全体で１ミス			
7	**パラグラフ（段落）の始め** １タブ分（５スペース程度）空白をとり、各パラグラフの始めは揃える。 ※その箇所ごとに１ミス	Flying in the air was man's long dream.	Flying in the air was man's long dream.	1
8	**スペースと句読点** スペースと句読点は、前の語の一部分とみなされる。（項目 15 参照）	Flying in the air was man's long dream. Many inventors looked on birds	Flyingin the air was man's long dream: Many invent ors looked onbirds	1 2 2
9	**順序を前後して打たれた場合** 語の文字や、文中の語・行がおきかえて打たれた場合には誤り（ミス）となるが、おきかえて打たれた語の中に誤りがあれば、さらに誤りとして加えられる。	Flying in the air was man's long dream. Many inventors looked on birds as a model.	Flying in the air was man's dream long. Many inventors on loooked birds as a model.	1 2
10	**打ちおとし** １語につき２ミスとする。	Flying in the air was man's long dream. Many inventors looked on birds as a model.	Flying in air was man's long dream. Many inventors looked birds model.	2 2 4
11	**繰り返し語・余分語** 余分語を挿入した場合、挿入１箇所で１ミスであるが、その中に誤りがあれば加算される。	But the first traveler in the air was not in an airplane but in a balloon.	But the first traveler in the the air was not in an airplane but in a bigg balloon.	1 2
12	**問題文の誤り**　問題文に誤りがあったときは、訂正して打っても、また原文のとおり打ってもよい。しかし打たなければ誤りとする。			
13	**最後の語** 時間がきて、１語の途中で終わったときは、その打ったところまでのストロークス数が計算される。ただし、その中に誤りがあれば、１ミスとなる。	before the first airplane left the ground	before the first airplane left the goou	1
14	**全文の２度打ち**　問題文を打ち終えても２度打ちはしない。２度打ちした分は、ストロークスに加えない。			
15	**句読点の後のスペースのあけ方** A）Period（.）の後は２スペースあける。 B）Colon（:）の後は２スペースあける。 C）Exclamation Mark（!）の後は２スペースあける。 D）Question Mark（?）の後は２スペースあける。 E）Semicolon（;）の後は１スペースあける。 F）Comma（,）の後は１スペースあける。 G）Hyphen（-）前後のスペースはあけない。 H）Abbreviation Mark（Ave.）の後は１スペースあける。（ただし Abbreviation Mark が Period を兼ねる場合は２スペースあける） 誤った場合はその箇所ごとに１ミスとする。			